

※ 解答は答案用紙を横(受験番号欄を右位置)にして、縦書きで記しなさい。

一、次の項目から五つを選び、知るところをそれぞれ三〜四行で記しなさい。

- ① 劉向・劉歆
- ② 韓愈
- ③ 王龍溪
- ④ 黄宗羲
- ⑤ 王国維
- ⑥ 隋書經籍志
- ⑦ 五經正義
- ⑧ 太平御覽
- ⑨ 明儒学案
- ⑩ 白鹿洞書院揭示
- ⑪ 陰陽五行説
- ⑫ 禪讓放伐
- ⑬ 神滅不滅論争
- ⑭ 天理人欲
- ⑮ 知行合一
- ⑯ 崎門学

二、次の中から一題を選び、知るところを論述しなさい。

(甲) 前近代中国における文献学の特質について。

(乙) 陽明心学と明末仏教との関係について

三、次の文章を書き下し文に改め、現代日本語に訳しなさい。(『龍溪会語』)

予聞之道無

方所而學無止極淵然而寂若見其可即而非以形求也炯然而澄若見其可觀而非以知索也盎然而出若見其可循而非以力強也夫非以形求則為忘形之形非以知索則為忘知之知非以力強則為忘力之力惟忘無可忘斯得無所得得且不可而况於住乎若此者存乎心悟未有所悟而求得與未有所得而求忘皆妄也雖然習染之入人亦微矣漸漬薰炙蒸滯乎心髓循景竊發而不自知故凡應感逆順之間稱譏交承之際未免矯持強飾頌忌調停出於有所為而為者皆習染之為累也

四、次の文章を書き下し文に改め、現代日本語に訳しなさい。(『古書通例』)

古人著書、既不題撰人、又不自署書名。後之傳錄其書者、知其出於某家之學、則題為某氏某子、或某姓名。有本是一書、至漢而散亂失次分爲數本者。即後世之書、初刻重刻及宋、元、明本往往多異不同。有其初本未編次、一家之學分爲數種者。如後人之詩文、甫得數卷、即爲一集。又有後學解釋其書、如漢儒之箋注、弟子記其言論、如宋儒之語錄、子孫撰其逸事、如家傳、門徒志其學行、如序跋、說辨辨滯篇、或別自單行、或附在本書、或分著篇章、或隨文附益。大抵古人之治學也、本以道術爲公器、其限斷不嚴、故先師之所作、與後師之所述、雜糅而不分。其著書也、姑以竹帛代口耳、其體例不精。故簡端之所題、與卷末之所記、攙越而失次。後之傳其書者、惟取其便於講習誦讀、不問其出自誰何之手也。